



学校法人 弘徳学園
姫路大学
豊岡短期大学
近畿大阪高等学校
こうのとり認定こども園

令和7年度 事業計画書

学校法人 弘徳学園

(1) 学園設立とあゆみ

学校法人弘徳学園は、平成16年4月に学校法人近畿大学から、近畿大学豊岡短期大学（同通信教育部）及び同附属幼稚園を母体として分離・独立しました。

そして、多年の懸案であった看護系の四年制大学、「近大姫路大学看護学部看護学科」を平成19年4月に開学、翌平成20年4月に「近大姫路大学教育学部こども未来学科及び同通信教育課程」を増設しました。結果、本学園は独立4年目にして、姫路市及び豊岡市に2つのキャンパスを有し、近大姫路大学の2学部2学科に、教育学部通信教育課程を加え、近畿大学豊岡短期大学こども学科及び同通信教育部並びに同短大附属幼稚園等を運営する学園となりました。

そして、平成26年度には地域の子育て支援のために、既存の幼稚園の他に「このとり保育園」を開園し、幼保連携型認定こども園をスタートさせましたが、この認定こども園は、子ども・子育て支援新制度による新しい幼保連携型認定こども園として平成27年度に新たに認可を受け、既存の幼稚園と保育園を廃止し新たな「このとり認定こども園」として運営しています。

本法人は、文部科学省の認可を受け、平成28年4月1日から法人等の名称を、「学校法人近畿大学弘徳学園」から「学校法人弘徳学園」、大学名を「近大姫路大学」から「姫路大学」、短期大学名を「近畿大学豊岡短期大学」から「豊岡短期大学」に変更するとともに、法人本部所在地を豊岡キャンパスから姫路キャンパスへ移しました。

平成29年4月に「姫路大学大学院看護学研究科」を開設。平成30年11月に同研究科博士後期課程への専攻課程変更の認可を受け、平成31年4月開設しました。

豊岡短期大学は平成31年4月に豊岡短期大学姫路キャンパスを開設し、現在豊岡と姫路の2キャンパス制で運営しています。

令和元年11月には、地域の子どもから高齢者まで健康と発達の向上にむけた研究、支援開発を行う「姫路大学附属健康・教育実践研究センター」を設立。

そして、令和5年3月29日に大阪府より認可を受け、令和5年4月1日より近畿大阪高等学校（狭域通信制）として開校、第一期生を受け入れ、高等学校も運営する学園となりました。

(2) 学園の建学の精神と教育目標

本学園は、近畿大学創立者世耕弘一先生の説かれた「教育の目的は、人に愛される人、人に信頼される人、人に尊敬される人の育成にある」を建学の精神として、他人や自然を思いやる、いわゆる「共生の心」を備えた人材の育成を目的としています。

この建学の精神を具現化するために、次のような教育目標をかかげております。

- 第1は、「人間は人間だけで生きているのではなく、他の生命とともに、生かされているという認識をもつこと、そしてこの思想を推進するための実践力を培う」
- 第2は、「専門職業人としての基本的な倫理観を身につけるとともに思いやりの心を培う」
- 第3は、「専門職に必要な基礎的知識及び技術を修得するとともに、創造性を培う」
- 第4は、「社会・歴史に対する深い洞察力を身につけるとともに、豊かな人間性を培う」
- 第5は、「国際社会に適応しうる感性を育み異文化を理解しうる人を培う」

II 事業計画の概要

(1) 中長期計画

法人の中長期計画の理念、目標、基本方針、主要対策は以下の通りです。

期間：令和2年度から令和7年度

●理念

建学の精神である

「教育の目的は、人に愛される人、人に信頼される人、人に尊敬される人の育成にある」を実現する

●目標

I 実践的教育による学生の育成

II 質の高い研究成果の社会的還元

III 教育資源による地域貢献、企業貢献及び国際貢献

IV 教育・研究活動を維持する環境の整備

●基本方針

I-1 (1) 教育の付加価値向上

I-2 (2) キャリア教育の充実

II-1 (3) 特色ある研究によるプレゼンスアップ

III-1 (4) 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

III-2 (5) グローバル人材の育成

IV-1 (6) 効果的な広報活動による入学志願者の増加

IV-2 (7) 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

●主要対策

1-1 教育力の向上

1-2 教育効果の可視化

2-1 社会人力の向上

2-2 専門職への就職率向上

3-1 外部資金による研究の充実

3-2 研究成果の向上

4-1 教育・研究の地域への発信

4-2 自治体、企業等との連携強化

5-1 語学力の向上

5-2 国際交流の推進・強化

6-1 広報活動の質向上

6-2 入試制度改革

7-1 収入増加と管理経費抑制

7-2 組織改革と基幹人材育成

中長期計画とその進捗状況の詳細は、本法人のホームページに記載しております。

<https://koutoku.ac.jp/info/>

○令和3年度短期大学認証評価の結果について

豊岡短期大学 評価HP

<https://koutoku.ac.jp/toyooka/outline/kouhyou/daisansha/>

○令和2年度大学評価（認証評価）結果について

姫路大学 評価HP

https://koutoku.ac.jp/himeji/university/informationdisclosure/evaluation_report/

○主な教育・研究の概要

本学園のアドミッションポリシー（入学者受入れの方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）は、それぞれホームページにて公表しております。

姫路大学：https://koutoku.ac.jp/himeji/university/educational_policy/

同通信教育課程：https://koutoku.ac.jp/himeji/class/tuusinkyuiku_katei/educational_policy/

姫路大学大学院：<https://koutoku.ac.jp/himeji/daigakuintop/>

豊岡短期大学：<https://koutoku.ac.jp/toyooka/outline/policy/>

近畿大阪高等学校：https://koutoku.ac.jp/kinkiosaka/guide/admission_policy/

こうのとりの認定こども園 <https://koutoku.ac.jp/kodomoen/>（園の教育概要等）

(2) 予算編成の基本方針

令和7年度予算編成における基本方針とその概要について

令和6年11月

弘徳学園 法人本部

○令和7年度予算編成の基本方針

私立学校をめぐる環境は、少子化による18歳人口の減少が続き、大学間の学生募集活動は熾烈を極めており、そのうえ、国際情勢の不安定さや異常気象による物価の高騰等も加わり、私立学校の経営環境はこれまで以上に厳しい状況となっています。本学園も例外なくこれらの影響を受け、支出が収入を上回る状況や一部の定員割れが続いており、一刻も早くこの財務状況を脱却し、「健全な財政の維持と発展」を目指す必要があります。

上記のような観点から、学園の中期計画を基に、学園全体の支出予算は、収入予算の範囲内に抑え、累積赤字の圧縮にむけ単年度収支の改善に努めることを基本方針とします。あわせて、学園の健全な発展を踏まえ必要な予算を戦略的に配分する必要もあり、経営的視点等を踏まえ戦略的予算配分も併せて検討します。

なお、予算編成過程では教育・研究経費への重点配分、冗費の削減を念頭に置き、各所管の意見が反映させ、教育研究活動やその他の諸活動が積極的に行われるよう留意します。

なお、今日の学校経営は、財務情報はもちろんのこと、教育情報の公開が義務付けられ、経営の透明性と説明責任がより一層問われており、こうした時代の要請に応え得る予算を編成することが重要です。

(3) 主な事業の目的・計画等

① 中長期計画に基づく令和7年度事業計画に係る経費は下記別表のとおりです。

事業No.	対象学校	事業名	予算額(千円)
7- 1	法人本部	企画広報機能強化計画	9,000 千円
7- 2	法人本部	生成AI導入による学園業務の質の向上化計画	3,200 千円
7- 3	法人本部	人材育成計画における研修体制の整備	1,300 千円
7- 4	法人本部	法人用公用車の整備計画	4,944 千円
7- 5	姫路大学	姫路大学サッカー部の活性化支援	3,720 千円
7- 6	姫路大学	姫路大学パソコン更新関連事業	11,951 千円
7- 7	姫路大学	姫路大学学修活動応援プログラム「新入生歓迎会」の実施	2,000 千円
7- 8	姫路大学	姫路大学学修成果可視化システム導入	3,300 千円
7- 9	姫路大学	姫路大学硬式テニス部の活性化支援	15,000 千円
7- 10	姫路大学	姫路大学通信教育課程教務システム改修計画	1,364 千円
7- 11	姫路大学	姫路大学教員採用試験対策講座及び学生支援	6,589 千円
7- 12	姫路大学	姫路大学看護師等国家試験対策	13,593 千円
7- 13	姫路大学	姫路大学図書館利便性向上への取組	772 千円
7- 14	豊岡短期大学	豊岡短期大学(豊岡キャンパス) 本館GHP空調設備改修工事	73,152 千円
7- 15	豊岡短期大学	豊岡短期大学(豊岡キャンパス) 和花季会館吊り天井落下防止対策工事	16,502 千円
7- 16	豊岡短期大学	豊岡短期大学(豊岡キャンパス・姫路キャンパス) 公開講座の開設	800 千円
7- 17	豊岡短期大学	豊岡短期大学地域交流型大学祭「和花季ひろば」の開催	1,000 千円
7- 18	豊岡短期大学	豊岡短期大学「子ども家庭ソーシャルワーカー養成講座」の開設	2,500 千円
7- 19	近畿大阪高校	近畿大阪高等学校防火設備整備工事	9,000 千円
事業費合計			179,687 千円

② 中長期計画に基づく令和7年度事業計画に係る事業等の概要は下記のとおりです。

>> 学生のキャリア支援及び学生活動に関する事業

(7-11) 姫路大学教員採用試験対策講座及び学生支援

姫路大学教育学部におきまして、教員採用試験対策は最重要課題です。教員採用試験対策は、3年生を対象に学内の教員が面接指導や模擬授業指導および筆記試験対策を行っています。

一連の対策に加え、教員採用試験を目前に控え、教員採用試験にかかる学習の最終チェック、各学生の弱点の把握およびその補強を行い、各学生の採用試験までの効率的な学習に役立てるため、オンライン講座の実施や講師アウトソーシングを行っています。

また、複数の教員採用試験の受験を推奨しているため、遠方での受験に対し、学生の経済的負担軽減の観点により、二次試験以降の交通費等の補助を引き続き行う計画です。

(7-12) 姫路大学看護師等国家試験対策

看護学部の重要課題は看護師国家試験対策にあります。看護師国家試験合格率100%を目指し、看護学部全学年の全学生を対象として、学外の専門講師による集中講義ゼミや模擬試験を行うとともに、特に4年生には個々の学生の学習進度に応じ、補講や個人指導などをきめ細かく行っていく計画です。

(7-5) 姫路大学サッカー部の活性化支援

デフ(ろう者)サッカーとは、聴覚障がいのある人が行うサッカーのことです。

姫路大学では、令和3年4月にデフ(ろう者)サッカー部を設立、姫路大学教育学部通信教育課程の学修制度を活用し、聴覚障がいを持つ学生に向けて、修学支援および課外活動の支援を継続して行う計画です。

また、併せて地域貢献活動への展開も図る予定です。

(7-7) 姫路大学学修活動応援プログラム「新入生歓迎会」の実施

姫路大学の看護学部、教育学部の両学部生の1年生と4年生を対象に新入生歓迎会を行う計画です。

(7-9) 姫路大学硬式テニス部の活性化支援

姫路大学では硬式庭球部の強化に力を入れており、国際基準のコートを4面整備し、部員の対外試合の移動に必要な車両を準備するなど選手育成を図ってきました。

平成29年度に関西学生リーグ1部へ昇格。平成30年度から国体にも出場、令和5年度に開催された関西学生新進テニストーナメント女子シングルスにて、優勝、令和6年度と同大会において、女子ダブルスで優勝を飾り、女子シングルスでは惜しくも準優勝となりましたが、公式戦を華々しくスタートさせました。

本年度も引き続き国内遠征も含め、育成選手の強化を図る計画です。

>>学術・研究・発表関連事業

(7-16) 豊岡短期大学(豊岡キャンパス・姫路キャンパス) 公開講座の開設

本学の幼児教育・保育の専門性と教育資源を生かした情報発信と地域貢献を目的とし、受講料は無料の公開講座の実施を計画しています。令和6年度に実施した「鈴木翼コンサート」は大好評をいただきました。

令和7年度は、姫路キャンパスで著名な遊び歌作家をお招きし、親子で一緒に楽しむコンサート講座や現職の幼稚園教諭や保育士など子どものあそび指導に携わる人を対象にしたあそび歌講習会を開催する計画です。

また、姫路市公開講座については、本学教員の専門分野を生かし、心理学講座とICT講座の開設を申請する計画です。

(7-17) 豊岡短期大学地域交流型大学祭「和花季ひろば」の開催

「和花季ひろば」は、地域交流型の大学祭として位置づけた主要行事です。

2つの柱を設け2日間で実施します。

1日目は「みて！きいて！たのしもう！」双方向的表現活動による異世代間交流として、但馬地域や周辺地域の子どもたち・保護者が集い、日頃の学修や練習の成果を多目的ホールのステージで発表する機会を設けます。

2日目は「食のフェア」地域密着型のイベントで、地域の店舗やキッチンカーなどが多数出店し、様々な地元の食を味わうことができます。また学生が企画する体験コーナーでは、子どもたちをメインにした地域の方々と交流を図り、多くの学びを得る機会としています。令和7年度も継続して開催する予定です。

(7-18) 豊岡短期大学「子ども家庭ソーシャルワーカー養成講座」の開設

令和6年度に、子ども家庭庁が養成を始めた「子ども家庭ソーシャルワーカー」の養成講座を、早稲田大学、西日本こども研修センターあかし、徳島文理大学、児童養護施設一葉とのコンソーシアムの中で開設しました。

令和7年度は、このコンソーシアムの連携を活かしつつ、本学独自で講座を開設し運営をする計画です。

この分野でのパイオニアを目指し、学科の特色として進めてまいります。

>>施設設備等に関する事業

姫路大学整備関係事業

(7-6) 姫路大学パソコン更新関連事業

姫路大学内のパソコンのアップグレードと機器の更新を行う計画です。

(7-8) 姫路大学学修成果可視化システム導入

学生の学修成果に関する情報を的確に把握・測定し、可視化するためのシステムを導入する予定です。

姫路大学整備関係事業

- (7-10) 姫路大学通信教育課程教務システム改修計画
姫路大学通信教育事務課で使用している教務システムについて、必要なカスタマイズを行う予定です。
- (7-13) 姫路大学図書館利便性向上への取組
図書館利用者の利便性向上のためのパソコン更新とフリーラーニングスペースでの学生への教育支援向上のためのパソコン導入を計画しています。

豊岡短期大学整備事業

- (7-14) 豊岡短期大学(豊岡キャンパス) 本館GHP空調設備改修工事
気候変動の激しい昨今の状況を鑑み、教室の冷暖房機能の維持は必須です。そのため、経年劣化による不具合が頻発している本館のGHP空調を全面的に更新し、教育・研究環境の向上を図る計画です。
(補助金申請予定事業)
- (7-15) 豊岡短期大学(豊岡キャンパス) 和花季会館吊り天井落下防止対策工事
豊岡短期大学(豊岡キャンパス)和花季会館は竣工から35年以上が経過しており、大人数を収容する大型施設として、非構造部材の安全性を高め、豊岡短期大学やこのとり認定こども園の諸行事を滞りなく開催するため、和花季会館ホール内の吊り天井落下防止対策の工事を実施する計画です。
(補助金申請予定事業)

近畿大阪高等学校整備事業

- (7-19) 近畿大阪高等学校防火設備整備工事
近畿大阪高等学校では、阪南市立下荘小学校の旧校舎を阪南市からの無償貸与により再活用して、令和5年度より開校いたしました。旧校舎に防火設備が設置されていないことが判明いたしましたので、早急に火災対策を講じる必要があるため、旧校舎1階から3階までの3か所に延焼防止のための随時閉鎖式防火扉設置の設計・監理契約に基づく工事を実施する計画です。

>>法人機能整備事業

(7-1) 企画広報機能強化計画

本法人には、法人・大学・短期大学・高校・こども園としての情報発信が十分ではないこと、学生募集に伴う広報部門は各学校ごとに独立していることから、法人として共通化できる広報活動、学生募集に直結しない認知度向上を目的とした広報活動や5年後・10年後を見据えた学生募集活動の中期的な戦略化を主たる目的として「企画広報部門」の立ち上げを検討。専門業者に業務委託をすることで広報部門を効果的かつ効率的に機能させる計画です。

(7-2) 生成AI導入による学園業務の質の向上化計画

照会応答等の職員業務等をAIで代替することで捻出した余力により、きめ細かな学生対応や新たな企画・立案作業に職員が注力することで、学園業務の質の向上を図る計画です。

(7-3) 人材育成計画における研修体制の整備

本学園の中間層の人材育成は、風通しのよい組織風土づくりに必須であり、学園の永続的な発展のために、管理職研修を実施します。

(7-4) 法人用公用車整備計画

法人用公用車について、今後の利用状況、コストパフォーマンス等を考慮し、保有台数を削減、また、経費の抑制が図れる車種に変更する計画です。

>>経常的経費による活動

- ・ 姫路大学と豊岡短期大学では、「高等教育の修学支援新制度」の支援対象機関として認定されました。
この制度の他にも、授業料等を減免する形で、様々な本学園独自の奨学金制度を設け、学生の修学サポートを行っています。
- ・ 近畿大阪高等学校では、学外から様々な職種の講師を招き、生徒自身が自ら探求し興味を広げ、自身の進路選択の一助とするため「トライアルアワー」を実施しています。

>>経常的経費による活動

- ・ 今のとり認定こども園では、外国人講師と常時接することにより、幼児期からのバイリンガル教育を行い、広く国際感覚を育成しています。また、茶道を保育に取り入れ「和の文化」にも触れ、礼儀作法を身に付けるなど特色ある教育・保育を行っています。その他にも、地域の子育てに関する支援事業を行う予定です。

(4) 学園の将来構想

本学園における将来構想は、中長期計画に基づき計画いたします。

Ⅲ 財務の概要

(1) 予算の概要

① 資金収支予算の状況

(単位：千円)

収入の部	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増 減	参考値(R5年度決算)	令和7年度予算概要
学生生徒等納付金収入	1,919,270	1,948,037	△28,767	2,074,109	・授業料、入学金等の納付金
手数料収入	43,416	43,736	△320	44,362	・入学検定料等の手数料
寄付金収入	0	0	0	0	
補助金収入	514,832	449,996	64,836	457,234	・私立大学等経常費補助金他
資産売却収入	0	0	0	465	
付随事業・収益事業収入	27,496	25,506	1,990	25,711	・補助活動収入他
受取利息・配当金収入	584	380	204	710	・受取利息
雑収入	50,971	55,144	△4,173	115,160	・コピー代等その他の雑収入
借入金等収入	0	0	0	0	
前受金収入	254,659	264,719	△10,060	233,450	・翌年度の学生生徒等納付金
その他の収入	51,003	101,501	△50,498	98,640	・預り金、前期末未収入金他
資金収入調整勘定	△287,280	△254,109	△33,171	△294,519	・前期末前受金、期末未収入金
前年度繰越支払資金	962,199	1,262,990	△300,791	1,348,579	・前年度末の現金預金
収入の部合計	3,537,150	3,897,899	△360,749	4,103,901	

支出の部	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増 減	参考値(R5年度決算)	令和7年度予算概要
人件費支出	1,733,910	1,710,100	23,810	1,770,979	・本俸、賞与、諸手当、福利費等
教育研究経費支出	640,512	749,709	△109,197	678,336	・教材等教育研究にかかる経費
管理経費支出	250,214	314,312	△64,098	273,215	・学生募集経費等管理的経費
借入金等利息支出	0	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	0	
施設関係支出	39,487	41,815	△2,328	14,483	・建物等施設に関する支出
設備関係支出	72,299	28,559	43,740	25,462	・機器備品等設備に関する支出
資産運用支出	0	0	0	0	
その他の支出	136,722	188,103	△51,381	229,793	・前期末未払金の支払等
予備費	10,000	10,000	0	0	・予備費
資金支出調整勘定	△123,224	△106,897	△16,327	△151,356	・期末未払金等
翌年度繰越支払資金	777,230	962,199	△184,969	1,262,990	・翌年度に繰越す現金預金
支出の部合計	3,537,150	3,897,899	△360,749	4,103,901	

※ 科目ごとに千円未満四捨五入しているため、合計等数値が一致しないことがあります。

※ 資金収支とは

当該会計年度における諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容と当該会計年度における支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするためのものであり、1年間のお金の動きを網羅したものであります。

② 事業活動収支予算の状況

(単位：千円)

		科目	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増減	参考値(R5年度決算)	令和7年度予算概要
①教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,919,270	1,948,037	△28,767	2,074,109	・授業料、入学金、実習料等の納付金
		手数料	43,416	43,736	△320	44,362	・入学検定料等の手数料
		寄付金	0	2,963	△2,963	4,062	
		経常費等補助金	514,832	445,594	69,238	457,234	・国庫補助金等(施設整備関係除く)
		付随事業収入	27,496	25,506	1,990	25,711	・補助活動収入他
		雑収入	50,971	55,132	△4,161	115,155	・コピー代等その他の収入
		教育活動収入計	2,555,985	2,520,968	35,017	2,720,632	◎経常的な教育活動に関する事業活動収入
事業活動支出の部	事業活動支出の部	科目	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増減	参考値(R5年度決算)	令和7年度予算概要
		人件費	1,815,569	1,718,276	97,293	1,793,324	・本俸他、退職給与引当金繰入額
		教育研究経費	851,148	958,810	△107,662	893,020	・教材等教育研究経費及び減価償却
		管理経費	273,744	334,514	△60,770	298,490	・教研費以外の管理経費と減価償却
		徴収不能額等	0	0	0	0	
		教育活動支出計	2,940,461	3,011,600	△71,139	2,984,834	◎経常的な教育活動に関する事業活動支出
教育活動収支差額			△384,476	△490,632	106,156	△264,203	教育活動における事業活動収入と支出の差額
②教育活動外収入の部	収入の活動	科目	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増減	参考値(R5年度決算)	令和7年度予算概要
		受取利息・配当金	584	380	204	710	・預金利息
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	
	教育活動外収入計	584	380	204	710	◎経常的な財務活動に係る事業活動収入	
支出の活動	支出の活動	科目	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増減	参考値(R5年度決算)	令和7年度予算概要
		借入金等利息	0	0	0	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	
	教育活動外支出計	0	0	0	0	◎経常的な財務活動に係る事業活動支出	
教育活動外収支差額			584	380	204	710	財務活動における事業活動収入と支出の差額
④ 経常収支差額			△383,892	△490,252	106,360	△263,493	特殊要因を除いた経常的な事業活動収入と支出の差額
③特別収入の部	収入の活動	科目	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増減	参考値(R5年度決算)	令和7年度予算概要
		資産売却差額	0	0	0	0	
		その他の特別収入	0	11,357	△11,357	6,085	
		特別収入計	0	11,357	△11,357	6,085	◎特殊な要因による臨時的な事業活動収入
	支出の活動	支出の活動	科目	R7年度予算	R6年度予算(補正)	増減	参考値(R5年度決算)
		資産処分差額	6,778	3,011	3,767	4,821	・固定資産の除却・廃棄損
		その他の特別支出	0	2,340	△2,340	1,872	
	特別支出計	6,778	5,351	1,427	6,694	◎特殊な要因による臨時的な事業活動支出	
⑤ 特別収支差額			△6,778	6,006	△12,784	△608	◎特別収支の事業活動収入と支出の差額
〔予備費〕			10,000	10,000	0		
基本金組入前当年度収支差額			△400,670	△494,246	93,576	△264,101	◎⑥事業活動収入と⑦支出の差額
基本金組入額合計			△54,212	△49,638	△4,574	△38,800	・第1号基本金及び第4号基本金の合計
当年度収支差額			△454,882	△543,884	89,002	△302,901	
前年度繰越収支差額			△4,576,009	△4,032,125	△543,884	△3,729,224	・前年度から引継の収支差額
基本金取崩額			0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額			△5,030,891	△4,576,009	△454,882	△4,032,125	・翌年度へ繰越す収支差額
(参考)					0		
⑥ 事業活動収入計			2,556,569	2,532,705	23,864	2,727,427	・①～③事業活動収入の計
⑦ 事業活動支出計			2,957,239	3,026,951	△69,712	2,991,528	・①～③事業活動支出と予備費の計

※ 科目ごとに千円未満四捨五入しているため、合計等数値が一致しないことがあります。

※事業活動収支とは

事業活動収支とは、当該会計年度の学校法人の負債とならない収入を事業活動収入、当該会計年度において消費する資産や役務の対価の合計を事業活動支出とし、この収入と支出について事業活動の内容により区分して計上し、基本金組入後の収支の均衡状態を明らかにすることを目的として作成するものです。

事業活動の区分は、①教育活動収支（特別収支と教育活動外収支を除くすべての収支）と②教育活動外収支（経常的な財務活動等）と③特別収支（特殊な要因により発生する臨時的な事業活動収支）の3つに区分されます。

また、①と②は経常的な経費として経常収支に区分し、特殊な要因（特別収支）を除いた経常的な事業活動収入と支出の差額を④経常収支差額とし、③特別収支では臨時的な事業活動収入と支出の差額を、⑤特別収支差額として明示しています。

そして、⑥は事業活動収支における収入の合計、⑦は事業活動収支における支出及び予備費の合計であり、この⑥から⑦を差し引いた額が、基本金組入前当年度収支差額と同じ金額となります。

※12ページの②事業活動収支予算の状況に、①～⑦の番号を付して表示

③ 予算概要の説明

学園中長期計画の理念・目標に基づき、基本方針に掲げている財政基盤の安定化を図るべく、主要対策の収入増加と管理経費抑制の取組に配慮して、事業計画及び経常予算を編成しております。

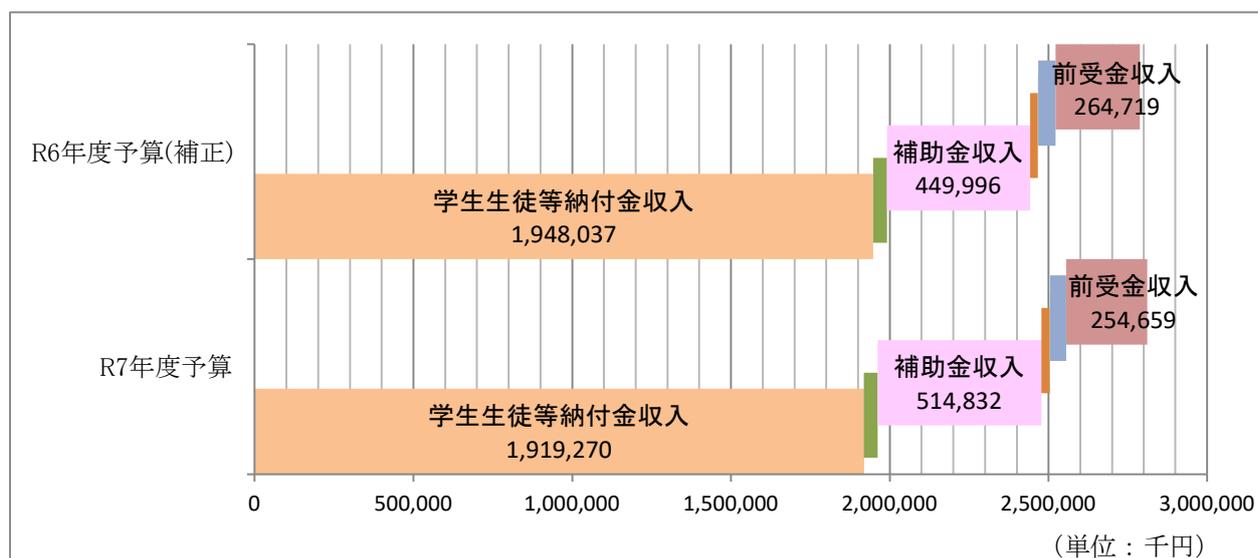
資金収支予算について

令和7年度の資金収支予算では、学園の整備計画に伴い、空調機器の入替、非構造部材への安全性対応、PC入替など大型の設備投資を予算化、その他の支出経費は、収入予測をもとに、経費削減目標を定め予算を編成した結果、現金預金（翌年度繰越支払資金）は、前年度より大幅に減少する見込みです。

令和7年度資金収支予算における翌年度繰越支払資金、いわゆる現金預金の保有見込額は7億7千万円で、令和5年度決算から4億8千5百万円の減少、前年度補正予算から1億8千万円の減少を見込んでいます。

(単位：百万円未満切捨)

資金収支収入予算における前年度収入予算（補正）との比較



事業活動収支予算について

令和7年度の事業活動収支予算では、学園の整備計画に伴い、空調機器の入替、非構造部材への安全性対応、PC入替など大型の設備投資を予算化、その他の支出経費は、収入予測をもとに、経費削減目標を定め予算を編成しましたが、前年度に引続き単年度収支が支出超過の見込みとなり、翌年度繰越収支差額の支出超過額を圧縮できない見込みです。

令和7年度事業活動収支予算における経常収支差額（教育活動収支と教育活動外収支の差額の計）は、△3億8千3百万円です。こちらに特別収支差額と予備費を加えた、基本金組入前当年度収支差額は、△4億円となる予測です。

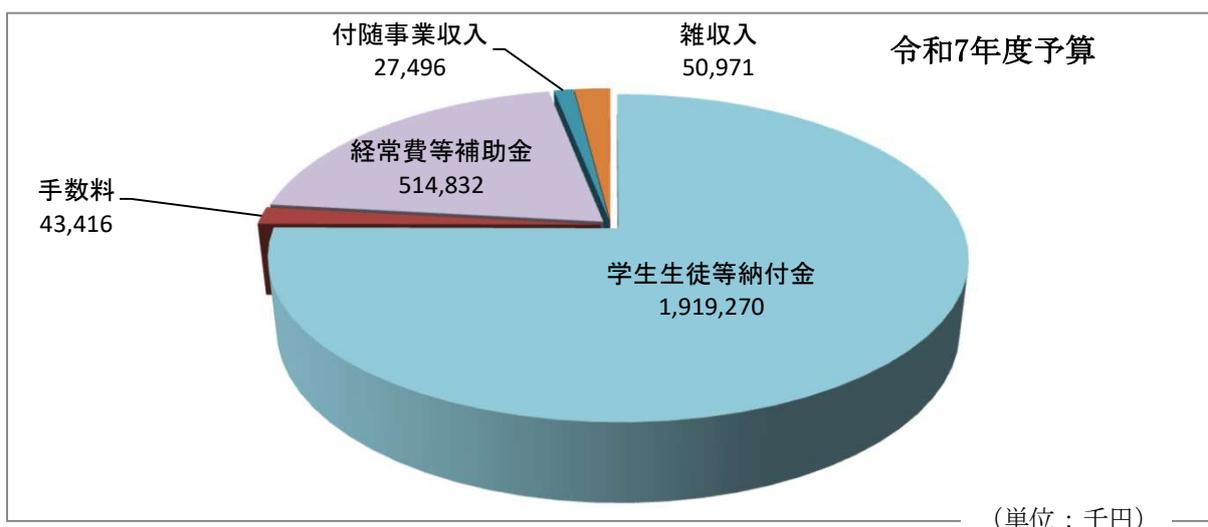
この差額に、基本金組入額 △5千4百万円を加算した額が、当年度収支差額となり、△4億5千4百万円の支出超過の状態となる予測です。

よって、前年度繰越収支差額に当年度収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は、△50億3千万円の累積の支出超過となる見込みであり、引き続き累積の支出超過を圧縮できない見込みとなります。

長期・短期とも借入金はなく、0円です。

(単位：百万円未満切捨)

事業活動収支予算における収入の構成



事業活動収支予算における支出の構成

